

**2014 島根県労福協 10月~11月**

**「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」を成功させよう!!**

定期総会で2014年度重点方針として掲げた「事業団体利用拡大支援の具体的実践」について、8月18日開催した第1回理事会において、10月~11月を「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」として以下の取組を行うことを確認した。(9月を準備期間として取組の準備・意思統一を図る。)

全国的にもこの2ヶ月間を「生活底上げ・福祉強化キャンペーン」として①福祉事業団体利用拡大②生活困窮者自立支援事業の準備③政策制度要請等各種取組を行うこととなり、これに呼応する形で本取組を行う。

今、島根県内に、支店、支所を有する福祉事業団体(労金・労済)は、島根県という人口減少社会にあって、生産年齢(15歳~64歳)人口の減少、非正規労働者の増大、また福祉事業の理解世代の退職等、大変厳しい事業環境にある。

このキャンペーンの目的は、労働団体、県労福協、地区労福協が一丸となって、福祉事業団体の利用拡大を支え、共助拡大に向けて福祉事業団体(労金・労済)の地域における認知度・社会的有用性の向上を図り、利用者数(先数)や業容の拡大を行うことにある。

**福祉事業団体利用拡大  
キャンペーンの具体的取組**

**① 労金利用拡大**

地区労福協は、労金営業店と連携し、退職性預金(財形年金、年金型エース預金)の新規、増額、一時金セットの取組を行う。地区労福協会員は組合員への周知、職場集会の開催、職場回り、集約等の協力を行う。(預金増強の参加人数の目標を設定する)

**② 全労済利用拡大**

地区労福協は、会員に、全労済支所と連携し、職員から「こくみん共済推進キャンペーン」の説明を受ける職場集会、職場委員会、執行委員会等の開催を行う。(開催回数目標を設定する)

**③ キャンペーン情報の共有**

県労福協は、キャンペーン期間中、2週間毎に上記①.②.の取組状況を集約し、事業団体と地区労福協にその結果を報告し、情報の共有化を図る。

~ 県・地方産別に3団体で協力要請訪問 ~

県労福協、中国労金県営業本部、全労済島根県本部は、9月3日、自治労、UAゼンセン、JAM山陰、山陰電力総連など10産別を訪問し、「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」への理解と傘下組合への協力文書の出状の要請を行った。その他23団体へは郵送により協力要請を行った。

~ 各地区労福協でも各種会議で意思統一 ~

地区労福協段階でも、出雲地区(8/26)、隠岐地区(8/28)、松江地区(9/11)、浜田・安来地区(9/17)と各地で幹事会や常任幹事会などが開催され、理事会報告を含めた「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」の準備がされつつある。

~ 中央産別からも各地方産別へ協力要請文書 ~

中央労福協からの情報によれば、9月11日現在、自治労、日教組、JP労組、フード連合、森林労連の各中央組織から県本部、地方本部へ「生活底上げ・福祉強化キャンペーン」への協力要請の文書が発信されている。

## ライフサポート事業先進県視察報告 愛媛県労福協から学ぶ

- 日時 2014年8月7日(木)～8日(金)
- 視察先 愛媛県労福協
- 参加者 安田、周藤(県労福協) 梶川、須山(くらしサポートセンター 島根相談員)、原田(連合島根)、安達(中国労金県営業本部)、徳原(全労済島根県本部)
- 対応者 杉本理事長、鷺沢事務局長、眞鍋相談員(愛媛県労福協)



県労福協は、くらしサポート運営委員会の7名が愛媛県労福協を8月7～8日にかけて視察訪問した。愛媛県労福協の事業は、①ライフサポート事業②社会

貢献活動育成助成事業③情報収集・生活広報事業④調査研究・研修活動事業⑤地域労福協育成事業等、事業分野としては島根県と類似していたが、「勤労者生活情報センター活動」として、労働運動を中心に福祉や医療・教育・文化等広範な分野の図書・資料や月刊購読紙が所蔵され、勤労者への情報提供や参考図書の貸出を実施。また、労働団体や大学の研究室の調査・研究にも活用され、愛媛県立図書館とHPリンク化が図られていた。また、調査研究事業として、労働者の生活実感をアンケート集約した「県勤労者短観」が半年毎にまとめられ、マスコミ発表されていた。毎回、地元新聞に取り上げられている。

### ライフサポート事業

1日目に鷺沢事務局長より概要説明を受け、2日目は眞鍋相談員から「くらしの相談センター」事業について説明を受け、や意見交換を行った。

愛媛県労福協の「ライフサポート事業」は、2009年の「くらしの相談センター」(3名)の開設にはじまり、翌2010年に「ジョブえひめ就労支援センター」(1名)を、2012年に「地域共同就職支援センター『就労相談室』」(1名)、そして2013年からは生活困窮者・生活保護・DV相談、シェルター運営を行う「きずな相談室」(1名)の開設と次々に事業の拡大が図られていた。



### 《くらしの相談センター・きずな相談室》

労働相談は、連合愛媛が相談窓口を開設し、労福協の「くらしの相談センター」は生活に関する相談が中心であった。2009年度370件であった相談件数が右肩上がりに増加し、2013年度は783件の実績。相談支援内容は、相談員が相談内容を分析・整理したうえで、専門機関への同行支援や専門機関への誘導・繋ぎによる問題解決を図っている。こうした寄り添い型・伴走型の支援対応により、相談者からの口コミで相談者の拡大に結びついている。



### 《ジョブえひめ就労支援センター》

2013年度は、延べ654名から相談を受けた。新規来所者は、165名(前年114名)、登録者80名で、うち53名が再就職。来訪相談者は、46歳以上の中高齢層が424名と圧倒的に多い。ジョブえひめは1人あたり1～2時間の相談時間が確保でき、ハローワークからのジョブえひめへの誘導もある。求職情報は、ハローワーク情報をネットリンクしているが、独自の求職情報の獲得にも力を入れている。

### 《地域共同就職支援センター『就労相談室』》

ハローワーク窓口での職業紹介と就職活動にあたっての不安や懸念事項の相談対応を一体化させ、ひとりでも多くの就職活動を促進するためのセンター。2013年度は236名から相談を受ける。再就職セミナーへの誘導等により問題解決を行っている。(労働者ほっとステーション事業～愛媛労働局、愛媛県との共同事業で1名を派遣)

### 視 察 感 想

- ・愛媛県労福協は、島根県労福協より1年遅れて2009年に「ライフサポート事業」をスタートした。その事業内容は、くらしの相談、就労支援相談、就労支援訓練・セミナー、シェルター運営と急速に拡大している。相談者の悩み相談に正面から向き合い、問題の分析・解決プラン作成、専門機関や行政窓口へ繋ぎつつ、「寄り添い・伴走」しながら一緒に相談解決を図ることが必要であると感じた。(社会的有用性から認知度向上へ)
- ・ライフサポート事業の相談は、ほぼ、ライフサポートセンターで完結させている。法テラスで紹介する事業も、サポートセンターで相談内容の詳細を仕上げていく。まさにワンストップ事業の実践化がはかられている。

ると感じた。

- ・相談内容についても、時系列にまとめられ、資料の整備・保管についても気が配られている。
- ・毎月、記者クラブに「ワーキングボイス」(手刷りの事業紹介チラシ)を投函している。これをネタに取材、あるいは新聞記事が掲載されている。広告宣伝費は殆ど使わず、マスコミ対策あるいは口コミで事業の広がりが図られている。鳥根県でも、マスコミへの情報提供を検討する必要性を感じたところである。

## ライフプランセミナー 浜田会場開催!!



2014年ライフプランセミナーが、9月7日(日)浜田市「いわみーる」で80名の参加を得て開催された。

講師には、昨年引き続き社会保険労務士の菅野美和子先生を迎え、講演をいただいた。「どうなる公的年金!はじめよう退職後生活の備え!」と題し、年金の仕組みやどのくらいの年金がもらえるのかという基本的な説明と、年金受給のポイント、働き続けた場合の年金の支給について、また、雇用保険、健康保険、退職後の税金、退職後の生活設計まで、実例を挙げて丁寧な講演が行われた。

講演に続いて、労働金庫、全労済からそれぞれ退職後に備えるための商品や生活設計の説明がされた。アンケートを見ると、殆どの参加者が「非常にわかりやすく、内容も理解できた。参考になった」との回答で、大変好評なセミナーであったことが伺える。今年度、このライフプランセミナーは、出雲会場、松江会場でも予定している。

今年度は、県労福協、労金、労済が初めての共同開催事業として取り組んでいる。ライフプランセミナーのセカンドライフ生活設計を、10~11月に予定している「福祉事業団体利用拡大キャンペーン」へ繋げていく必要がある。

## 2014年度県労福協第1回理事会開催!!

- 日時 2014年8月18日
- 場所 松江市：労働会館 201号
- 議題

<協議した議題>

1. 2014年度「ライフプランセミナー」の開催について
2. 福祉事業団体(労金・労済)の利用拡大支援の取組について
3. 高校生のための「出前講座」の実施について
4. ライフサポート活動の強化について
5. 2014年度秋のその他の活動について
6. 労働会館エレベーター及び4Fトイレの改修について
7. 役員辞任と今後の取扱について
8. 労福協出向職員の退職と新規受入について

## 8.27 出雲地区労福協

### 「過重労働による健康障害防止対策 とメンタルヘルス対策」 研修会を開



講師 岡 淳一さん

出雲地区労福協は、8月27日、労金出雲支店2階会議室において、40名参加のもとで標題の県労福協統一テーマの研修会を開催した。講師岡淳一さん(鳥根産業保健総合支援センターメンタルヘルス対策支援促進員・産業カウンセラー)は、最高裁における過労死判決2判例や労働契約法の安全配慮義務、また衛生委員会の活用など過重労働防止の意義に触れ、心の健康については、ストレス現状、セルフケアから企業の取り組み、職場復帰のルールづくり、企業が心の健康づくりを計画的・継続的に行うことが重要であると述べた。「こころの健康問題」は、特殊な個人の問題や企業経営とは関係のない問題ではなく、一旦発生すれば、会社の信頼性、生産性、損害賠償につながる重要な問題であると締めくくった。ある参加者は「何度かメンタルヘルスについて学ぶ機会があったがセルフケアが中心で、労働者・労働組合との関わりを学ぶことができてとても良かった。」と感想を述べていた。

くらしサポート  
センター鳥根

### ひとりで悩まないで!! まず相談!!

- ◆ 雇用全般、賃金、パワ・セクハラ、差別等仕事上の悩み
- ◆ 生活苦、多重債務、子育て、介護、家族関係、心の健康等生活上の悩み  
フリーダイヤルにお電話ください!

【相談は】 0120-154-052  
【相談料】 無料  
【相談曜日】 月~木  
【相談時間】 10:00~16:00



## 大東野球スポーツ少年団(雲南市)が優勝 第11回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

9月13日(土)、14日(日)、快晴の匹見運動公園野球場(益田市)で「第11回ろうきん杯学童軟式野球選手権大会 島根県決勝大会」が開催されました。



安定した投手と堅い守りで、3試合での失点が2点という素晴らしい戦績で、大東野球スポーツ少年団が、優勝の栄冠を勝ち取りました。

優勝した大東野球スポーツ少年団は11月8日、9日に広島市のマツダスタジアムで開かれる中国地区決勝大会に出場します。



チーム名	一	二	三	四	五	六	七	計
本庄ヒッターズ	0	0	0	1	0	0	0	1
大東野球スポーツ少年団	0	0	0	0	1	0	1x	2x

# こくみん共済推進キャンペーン

期間 2014年10月~12月

### 総合タイプ

入院・通院から死亡保障まで、手頃な掛金で幅広くカバー。



### 生きる安心タイプ

「もしも」のとき、あなたと家族の生きるちからになる備えを。

### 生きる安心Wタイプ



### 終身医療5000

入院と手術の一生保障。病気とけがに備えます。



### 医療タイプ

入院や通院などの医療費用に備えを。女性特有の病気の手術にも充実の保障。



### 医療安心タイプ

入院・通院・手術はもちろん先進医療が備わった医療重視の保障。



### キッズタイプ

### キッズワイドタイプ



満0歳から加入できる、お子さまの病気やけがのほか、賠償にも備える保障。



### キッズ満期金付プラン



お子さまの病気やけがに備える保障

### 医療安心Hタイプ

手頃な掛金で加入できます。

※ここに記載されている内容は、共済商品・保障内容の一部概要を説明したものです。お支払条件等の詳細については「ご契約のてびき」等を必ずご覧ください。